

9月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2012. 9. No. 54

目指せ自給自足！ ～子どもたちの夢の畑～



配水管を埋める溝作り



まっすぐまっすぐ掘って行く



水が出るようになった！

皆さんこんにちは。今カンボジアではところどころで大雨による道路の水没が起きています。地下の排水設備がまだ整っていないカンボジアでは、豪雨が降るたびに雨水を排水できず、道路が川のようになっています。

さて、今回のDream通信では、8月中に子どもたち全員で行った園内の農園の配水管設置、SAJFarmで行った農場実習合宿、そして2度目の来園となったオカリナ会の皆様のコンサートやオカリナを使っの音楽の授業の様子についてお伝えします。

孤児院農園の本格稼働

孤児院内の2haの農園では、グループ農作業を行っていますので、子どもたち自身で、土地を耕し、野菜を育てています。しかしこの農園には水の供給が難しいという大きな問題がありました。SAJFarmの職員と経費については本部と相談し、ついに裏農園全体に配水管を張ることになりました。

細かく裏農園の計測を行い、どこに水道があれば農作業がしやすいか、子どもたちと相談しました。配置を決めたらパイプの購入です。しかし、孤児院のあるクラコー郡では良い品質のパイプが手に入らないため、プノンペンに行き値段交渉の上、70本近くのパイプを購入し、SAJFarmのトラックで孤児院に運びました。子どもたちは始め、大量のパイプを見ても、何がどうなるのか想像できない様子でした。

しかしそれから毎日、パイプを埋める溝掘り作業が始まりました。子どもたちは夏休みの日中を利用して、手にたくさん豆を作りながら固い土を掘り下げ、溝を作っていました。溝ができたところからパイプを埋め、配水管がきれいに整っていくと、子どもたちも嬉しそうに作業を続けて行きました。そうしてある程度整い、試しに一度タンクの水を開け、農園に水を流して見ました。すると子どもたちは『パイプに水が流れる音がする！』と走り出し、蛇口を開け、初めて出た水に大興奮でした。実際に水が出ることを確認できた子どもたちは残った作業を次々とこなし、農園全体に水がまわるようになりました。これで今の雨季が終わり乾季に入っても、野菜が一年中育てられることになり、子どもたちの苦勞が大きく実ることになりそうです。



職員の説明を聞く

農場実習

8月中旬、『夢追う子どもたちの家』開園以来初めて、園の外での農場実習合宿が実行されました。対象は中学生以上の大きい子どもたちのみ、男女に分かれ、男の子は8月22日から28日まで、女の子は9月1日から7日まで、それぞれ1週間ずつ、孤児院から車で2時間の場所にあるコンポンチュナン州のSAJFarmへ合宿に行きました。

初日、総勢22名の男の子たちで農場へ向かいました。農場の大家さん、管理人さんに挨拶し、早速作業にとりかかります。まずは炊事場とトイレの作成です。普段農場にいる人は日本人職員が2と管理人一家のみなので、子どもたちが大勢来ては食事もトイレも賄えません。そこで子どもたち自ら石を運び、炊事場を組み立て、トイレの穴を掘り、シートで囲いました。そしてそれが終われば実際のSAJFarmの仕事のお手伝いです。水田に流れた土を修復したり、レモングラスの大きな畑の除草、草刈機を使つての除草を行います。そして毎日3人が炊事当番になり、作業の傍ら、全員分の食事を用意します。毎日毎日炎天下の下、体調を崩す子どもも出しながら、たくさん働き、1週間を乗り切りました。そして子どもたちは、本当の仕事を経験し、顔は黒く焼け、手の豆は固くなり、頑張つて働いた身体になって園に帰ってきました。

今回の農業実習で子どもたちは本当の仕事の厳しさ、お金を得る(稼ぐ)ことの大変さ、食事のありがたさ、食事を作ってくれる人への感謝、助け合うことの大切さなど、たくさんのことを学ぶことができました。この貴重な経験を通して、将来の夢への意気込み、そして普段の生活にも変化が訪れてくることを期待しています。



炊事場用に重い石を運ぶ

オカリナ授業

8月5日、コンポンチュナン州の学校をまわつてオカリナを教えたり、コンサートを開いているオカリナ会の皆さんが、約1年振りに『夢追う子どもたちの家』を訪問してくださいました。

カンボジアの学校では音楽の授業が無く、音楽に触れる機会がありません。外国の楽器の演奏や歌などを直接見たことがない子どもがほとんどです。なので今回子どもたちは、『また来てくれた!』と大喜びでした。

去年と同じく、オカリナの他にギターと歌を披露してくださり、子どもたちの知っている曲や日本の曲もあり、大変盛り上がりました。コンサートの後は去年子どもたちにプレゼントしていただいたオカリナで授業を行いました。一年経って吹き方を忘れてしまっていたのですが、オカリナ会の皆さんがまた一から優しく教えていただき、子どもたちも真剣に練習しました。まだまだしっかりとした音程が出せるほどではありませんが、こうして音楽に触れて、楽器に触れることで、音楽についての勉強になればいいと思います。



目の前でのコンサート



オカリナの練習